

日本NIE学会会報

第27号

[発行所] 日本NIE学会事務局〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1 横浜国立大学教育人間科学部 重松克也研究室内
TEL/FAX 045-339-3433 E-mail: jssnie2005@gmail.com

日本NIE学会第11回仙台大会のご案内（1次案内） 並びに自由研究発表・特別分科会発表の募集

日本NIE学会会長
小原友行

大会実行委員長
岡田清一

主催：日本NIE学会
後援：宮城県教育委員会、仙台市教育委員会

- 1 期 日 平成26（2014）年12月6日（土）～7日（日）
- 2 会 場 東北福祉大学（宮城県仙台市青葉区国見1-8-1）
JR仙山線「東北福祉大前駅」から徒歩5分。
同線「北山駅」から徒歩10分。
- 3 参加費 3,000円（学生・院生 2,000円） 懇親会費 5,000円
- 4 テーマ 「震災に学び、未来を語る」

5 日 程

○12月6日（土）

11:30	12:00	13:00	13:10	14:40	15:00	16:45	17:00	17:45	18:00	20:00
理事会	受付	開会行事	シンポジウムⅠ 「いま、被災地からの発信」	休憩	シンポジウムⅡ 「未来に向けてNIEは 何ができるか」	総会	移動	懇親会		
12:30										

○12月7日（日）

8:30	9:00	12:10	12:30
受付	自由研究発表分科会	参加希望者による 被災地訪問ツアー	
	特別分科会		

- 12月6日(土) (東北福祉大学音楽堂「けやきホール」)**
- 12:00～13:00 **受付** (けやきホール)
- 11:30～12:30 **理事会** (中会議室)
- 13:00～13:10 **開会行事** (けやきホール)
- 東北福祉大学学長 萩野 浩基
学 会 長 小原 友行 (広島大大学院)
- 13:15～14:45 **シンポジウムⅠ(現地企画)「いま、被災地からの発信」**
- コーディネーター：堀江 謙一 (仙台市PTA協議会事務局長)
シンポジスト： 阿部 一彦 (気仙沼市立唐桑中学校, 元女川中学校)
金 義信 (東北福祉大学地域共創推進室)
谷口 和也 (東北大学大学院)
寺島 英弥 (河北新報社編集局)
- 14:45～15:00 **休憩**
- 15:00～16:45 **シンポジウムⅡ「未来に向けてNIEは何ができるか」**
- シンポジスト： 山下 佳子 (岩手県立盛岡南高等学校)
渡辺 裕子 (白鷗大学)
野津 孝明 (島根県立宍道高等学校)
小原 友行 (広島大学大学院)
- 司 会： 阪根 健二 (鳴門教育大学)
- 17:00～17:45 **総会**
- 18:00～20:00 **懇親会** (東北福祉大学食堂)
- 12月7日(日) (東北福祉大学講義室)**
- 8:30～9:00 **受付** (講義棟)
- 9:00～12:10 **自由研究発表分科会** (1発表 30分)
特別分科会 (1発表 30分)
※特別分科会では、震災復興をテーマとした研究発表を中心に構成する予定です。
- 12:30～ **被災地訪問ツアー**

6 研究発表者の募集

6.1 自由研究発表者の募集（8月16日（土）まで）

自由研究発表の発表者を募集いたします。会員ならどなたでも応募できます。また、発表内容はNIEに関するものであれば、実践報告、理論研究など、特に限定はありません。発表時間は30分（発表20分＋質疑応答10分）を予定しています。

6.2 特別分科会発表者の募集（8月16日（土）まで）

特別分科会の発表者を募集いたします。発表内容としては、震災復興をテーマとしたNIEに関する実践報告、理論研究を求めています。積極的な応募を期待しております。発表時間は30分（発表20分＋質疑応答10分）を予定しています。

自由研究発表希望ならびに特別分科会発表希望の方へ

「日本NIE学会第11回仙台大会」【参加登録/宿泊プラン/被災地訪問ツアー 申込書】の「研究発表を申込みされる方へ」の欄

- ・自由研究発表または特別分科会発表を希望される方は、次の要領で申し込んでください。同封の「~~日本NIE学会第11回東北大会参加申込書~~」の「~~9 研究発表申込み~~」に必要事項を記入し、**8月16日までにJTB東北ECデスク**へFAXまたは郵送でお申込みください。

- ・発表用紙収録用の原稿送付（9月29日まで）

自由研究発表または特別分科会での発表を申し込まれた方は、下記の様式で発表用紙収録原稿1頁分を作成のうえ、**9月29日（月）（必着）**までに**大会事務局**までお送りください。送付は郵送のみとなり、原稿をクリヤファイルに入れ、折らずに送ってください。原稿はそのまま印刷します。

7 大会参加の申込み

同封の「日本NIE学会第11回仙台大会」の申込書に必要事項をご記入の上、**11月5日（水）（必着）**までに**JTB東北ECデスク**へFAXまたは郵送でお申込みください。お申し込みされた方へは11月10日頃を目安に、予約関係書類及び請求書を発送いたします。なお、入金〆切は**11月21日（金）**とさせていただきます。

振込先 みずほ銀行 十四号支店 普通 2137908 (株)JTB東北

《恐縮でございますが、振込手数料はお客様ご負担となります。》

8 その他

(1) 宿泊についてのご案内

宿泊先はアパヴィラホテル仙台駅五橋（1泊朝食付6,800円）、をご用意しております。お部屋の数は十分に確保しておりますが、申込状況により他のホテルをご案内する場合がございます。その場合は事前にお知らせ致します。

(2) 出張依頼書の発行をお求めの方へ

大会事務局までメールでご連絡ください。その際に、ご本人の氏名、所属、職名、出張依頼先となる方の氏名、職名をお知らせください。

9 連絡、問い合わせ先

JTB 東北 EC デスク

〒170-0013 東京都豊島区東池袋3-23-14 ダイハツ・ニッセイ池袋ビル7階

TEL : 0120-989-960 (フリーダイヤル)、FAX : 0120-937-224

※営業時間：月～金 / 9:30～17:30 (土・日・祝日休業)

(株)JTBビジネスネットワーク

(観光庁長官登録旅行業第64号 / (株)ジェイティービー代理業 / 東京都知事登録旅行業者代理業第10718号)

JTB東北ECデスク「日本NIE学会第11回仙台大会」係

(総合旅行業務取扱管理者：山岸哲也)

大会事務局

〒240-8501 横浜市保土ヶ谷区常盤台79-1

TEL/FAX 045-339-3433 E-mail jssnie2005@gmail.com

横浜国立大学教育人間科学部 重松克也

10 発表要旨集録用の原稿 (■月■■日まで)

自由研究発表を予定されている方は、右記の様式で、発表要旨集録用原稿 (1頁分)を作成のうえ、■月■
■日 (■) (必着)までに、大会事務局までお送りください。送付は、大会ホームページから添付ファイルで送って下さい。郵送の場合は、クリアファイルに入れ、折らずに送って下さい。原稿はそのまま印刷いたします。

ホームページのアドレスは、<http://■■■■.■■■■.■■■■/> です。

学会セミナー報告

2014年1月26日（日）於日本新聞協会

「小学校でのNIEカリキュラムを考える～NIEのカリキュラム化の現状と課題～」

基調提案（橋本祥夫；京都文教大学、学会常任理事）では、学習指導要領改訂により新聞活用が盛り込まれた今日において、NIEのカリキュラム化の必要性が再確認され、全国のNIEカリキュラム作成状況の調査結果が示された。質問紙調査の回答ではその半数はなんらかの形でカリキュラム化を進めているが、一方の半数では手つかずであった。また市全体でNIEを推進する自治体の取組みを調査し、それらのカリキュラムを典型的に分析することで、今日的な動向が示されたのである。今後はカリキュラム化を進めていくにあたって、PDCAサイクルを用いモデルプランを示す事、柔軟なカリキュラムを構成する事、更に可視化←選択・判断→構造化というプロセスで作成する事などの必要性も提言された。

市川宝生氏・菅原昌代氏（両氏ともに埼玉県長瀬町立長瀬第二小学校教諭）は「**自分の思いや願いをよりよく伝え合える児童の育成～NIEの取組を通して～**」として、全学年の指導計画にNIEを位置づけ、NIE単元一覧表を作成されたプロセスが報告された。NIE実践校となった平成24年度には新聞スクラップを週1回朝の15分間、また新聞トークを月1回設定し、新聞を活用した授業実践・環境整備を行った。次年度にはカリキュラム化とともに家庭との連携を進めた。

無理のない形で他の先生方と連携した実践に取り組むことで、意識的に新聞活用する先生が増え、保護者にも好評であり、また全国学力テストで、地域・社会での出来事についての関心が全国平均の2倍のポイントとなった成果を生み出した。今後の課題として、まだ一部の先生方の取組に留まっており、その要因として新聞が生ものだけに使いづらい点やNIE実践の意図を理解してもらいにくい点、その成果が見えにくい点が挙げられた。全校の取組としていくためにも、カリキュラム以前に実践の魅力を職場に広げていきつつ、かつ管理職との協力の必要性を指摘された。

長年にわたるNIE実践の経験と現在校長として全校におけるカリキュラム化に取り組んだ経験をもつ**関口修二氏**（東京都北区立滝野川小学校校長、全国新聞教育研究協議会理事長）からは「**NIEカリキュラムの一考察 ——カリキュラム化への3段階——**」として、具体的なプロセスが提起された。第1段階は教科書の指導計画をベースとして、無理せず年間計画に位置づける。第2段階は無理せず作成した年間計画に、教材開発した単元を位置づける。第3段階は「NIEタイムを週の生活時程に位置づける。学校組織で取り組む。校内研究として取り組む。」である。平成18年度からNIEタイムに取り組んでおり、子どもたちは楽しんでおり伸びている。その成果は教科の授業等で簡単に見いだせるものではない。また、カリキュラムは大体のものとしてわかりやすく、先生方が魅力を感じやってみようと思えるものであるべき、と述べられた。

指定討論者である**吉成勝好氏**（日本新聞協会NIEコーディネーター）からは、全国のほとんどの学校・教師の中で新聞活用を重要な教育課題としてはとらえておらず、またカリキュラムに位置づけようとする

意識も希薄であるとの現状認識が示された。また無自覚にカリキュラムへの新聞活用を行っている場合もあると指摘され、だからこそ柔軟性のある「NIE カリキュラムのパッケージ化」が求められていると述べられた。同じく指定討論者の重松克也氏（横浜国立大学、学会常任理事）からはNIEがカリキュラムとして制度化されることの良さと弊害の両側面を踏まえ、現実の子どもや先生方が面白いと思う実践から自由度の高いカリキュラムを作成してはどうか、と指摘された。

参加者からの発言は活発であり、紙数の関係でその全てをここに紹介できない。以下に、当日のアンケート結果の概略を記することで、本セミナーのまとめに代えたい。

- ・セミナーの進行および内容：おおむね「良かった（参考になった）」という評価であった。報告された実践が参考になったという意見がある一方で、実践報告会ではなく、カリキュラムをどのように作り理論化体系化するのかの議論をもっと深めるべきという意見も記された。
- ・NIEのカリキュラム化の方向性：カリキュラム化の必要性を感じるものの、具体的な内容や方向性について逡巡をもつ意見が少なからず見られる。ただ、「柔軟な」「大らかな」「固定化しない」等のキーワードに象徴されるカリキュラム化への期待感も見られた。
- ・若い教師がいる学校でのカリキュラムづくりについて：ガイドとしてカリキュラムが必要。NIE そのものへの理解から始めていくプロセスが必要。

（臼井淑子 神奈川県横須賀市立田戸小学校、学会常任理事）

会報ニュース

◆事務局からのお知らせ

1 会費納入のお願い

過日、学会誌をお送りした際、会費納入についてご案内させていただきました。お忙しいとは存じますが、納入をお願い申し上げます。

2 住所等変更のご連絡のお願い

宛先不明などで、学会誌や会報などが返却されることがあります。住所変更、所属の異動等がありましたら、その都度事務局までお知らせくださいますようお願いいたします。なお、転送等により無事に届いております場合でも、住所変更や所属の異動等をお知らせください。